

現場の声から生まれるものづくり

セイリンの製品開発を支えているのは、製造技術や品質管理だけではありません。全国の営業担当者が治療院や学校、学会を訪問し、そこで得た現場の声を開発部門へ届けています。「もっと使いやすきたい」「患者様の負担を減らしたい」といった多くの人々の意見が、製品の進化につながっています。

稲葉社長は、製品開発について次のように話します。

「製品は開発部だけでつくるものではありません。実際に使っていただく先生方の声があつて初めて、本当に良い製品になります。」

営業・開発・製造が一体となり、現場とともにものづくりを進める。そこにセイリンの大きな強みがあります。

進化を続ける ディスプレイザブル鍼

稲葉社長が入社した頃は、感染症への社会的関心が高まり、鍼も再利用からディスプレイザブルへ移行し始めた時代。しか



一本の鍼に込める想い 品質、現場、鍼灸の未来を見据えたセイリンのものづくり

1978年の創業以来、「安全・安心」と「高品質」を追求し、ディスプレイザブル鍼の普及を牽引してきたセイリン株式会社。

一本の鍼に込められているのは、製品としての品質だけではなく、代表取締役社長・稲葉 巧さんへの取材から、鍼灸業界の未来を見据えるセイリンのものづくりに迫ります。

国内一貫生産が支える 品質と安全性

セイリンの強みは、原材料の受け入れから製造、洗浄、検査、包装まで、一貫した品質管理体制のもとで製品づくりを行っていること。工場では、ロボットによる高精度な自動化と、人の目による厳格な品質確認を組み合わせ、高い品質を維持しています。

また、製品そのものの品質だけでなく、鍼を使用する環境における衛生管理や安全な使用方法を伝えることもメーカーの重要な役割だとセイリンは捉えています。それゆえ、鍼の再使用による感染リスクが課題となっていた当時から、皆様の安

し当時は、使い捨て鍼に抵抗を持つ鍼灸師も多く、業界全体に浸透していたわけではありませんでした。製造現場に配属された稲葉社長は、ガラス製鍼管からプラスチック製鍼管へ移行する時期に、製品の改良や量産化に携わることに。

当初は、鍼と鍼柄を接着剤で固定していましたが、現在では鍼自体を加工し、機械的に強度を確保する構造へと進化。また、鍼管の先端も、患者様の痛みや違和感を軽減できるよう、角のある形状から丸みを帯びた形状へ改良されています。

さらに、現在では当たり前となったワンタッチ構造も、「使用前に外れてしまう」



ビューティガレージ社員が鍼製造工場を見学している様子

全と鍼灸業界の発展のため、ディスプレイザブル鍼の開発に取り組んできました。

その経験を現在にも活かし、工場見学や製品説明会、安全な使用方法を伝えるため技術セミナーの開催を積極的に開催。製品の品質と正しい知識の普及、その両面から鍼灸の安全性を支えています。

工場見学では、製造工程の多くがオートメーション化され、24時間稼働する製造環境や管理体制を実際に見ることが可能。学校や企業だけでなく、指定日には個人の鍼灸師も参加することができま。こうした品質管理や安全性へ徹底して取り組み姿勢は、長年にわたる製品改良の積み重ねにも表れています。

「固くて外せない」などの課題を一つひとつ解決しながら完成したものの。こうした改良は、製品をつくる側だけの視点ではなく、実際に使用する現場の声を受け止めながら積み重ねられてきました。鍼をより使いやすく、患者様の負担をより少なく。現場の声を起点としたものづくりが、今日のセイリン製品へとつながっています。

鍼灸業界の未来を 見据えた取り組み

セイリンは、製品の品質や使いやすさだけでなく、教育機関や学会への参加、医療機関との連携、業界団体での活動など、製品づくりの枠を超えた取り組みも続けています。

メーカー同士は競争する関係でもありませんが、現在は、東洋医学未来推進協会（OMFES）などを通じて、業界全体を発展させるための活動も積極的に進められています。

その変化について、稲葉社長はこう語ります。

「以前はメーカー同士が協力するという考え方はあまりありませんでした。でも今



セイリンが初めて開発した鍼灸鍼「Aタイプ」。ここから、セイリンのディスプレイザブル鍼は現場の声を反映して進化を続けている



は、鍼灸業界全体を発展させていかなければ未来はありません。一緒に市場を育てていくことが大切だと思います。」

競争だけではなく、協調しながら市場を育てる。その姿勢も、現在のセイリンを象徴する取り組みの一つです。そして、稲葉社長が重視するテーマの一つが、鍼灸師の未来。人口減少が進むこれからの時代、治療院だけでなく病院でも鍼灸師が活躍できる環境をつくっていく必要がある。そのためには、医師や看護師にも鍼灸をもっと理解してもらうことが重要だと考えているのです。

その想いから、セイリンでは医療系学会への参加や病院との連携、医療従事者への啓発活動にも積極的に取り組んでいます。鍼の品質を追求することから始まり、現場の声を製品に反映し、さらに鍼灸業界そのものの未来へと視野を広げる。セイリンのものづくりには、製品だけではなく、鍼灸に携わる人々やその先にいる患者様まで見据えた姿勢が表れています。